

主要魚種の資源評価票作成について ～資源の状態を判断する～

都の漁業者による自主的資源管理の対象となっている15種の水産資源について、漁獲量やCPUE (Catch Per Unit Effort)をもとに資源の水準や動向の分析を行いました。また、この結果、ならびに、分布や成長等に関する生態学的特性や漁業に関する情報について簡潔にまとめた「資源評価票」を作成し、ホームページで公開しました。

実施機関	振興企画室	事業名	島しょ魚類資源動態調査
------	-------	-----	-------------

背景・ねらい

令和2年に施行された改正漁業法に基づき、水産資源の管理体制の強化が進められています。この法では「資源管理を適切に行うことが都道府県の責務である」事が明記されていますが、資源管理を適切に行うためには、対象となる水産資源の種類ごとに、資源が増加しているのか、減少しているのか等、科学的根拠に基づきその現状を把握すること（資源評価）が大切です。そこで、島しょ農林水産総合センターでは、都で水揚げされる水産資源の資源評価を行うための仕組みを構築するとともに、都の漁業者による自主的資源管理の対象となる水産資源について、資源の現状を評価しました。

成果の内容・特徴

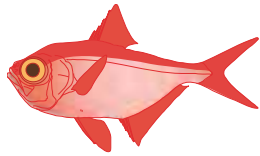
- ① 各漁協から提供を受けた「水揚量や操業で用いた漁法等の情報」を集約するとともに、資源の水準や動向を分析するための集計を行う基盤として、「漁業情報データベース」を構築し、漁獲量やCPUEを魚種別・漁法別に効率的に算出、把握出来るようにしました。
- ② 資源の評価を行うためのガイドラインとして、「東京都が実施する資源評価の基準」を策定し、東京都が資源評価を実施する水産資源を記載する他、資源量の相対的なレベルを表す指標である「資源量指標値」として利用できる情報や、その情報の選定やこれにより資源の状況を判断するにあたっての考え方等を定めました。
- ③ 都の漁業者による自主的資源管理の対象となっている15種の水産資源について、漁業情報データベースに登録されたデータを用いて「東京都が実施する資源評価の基準」に従い、資源の水準と動向の分析を行いました。その結果、資源の水準が高位と判断されたものが5種（キンメダイ、ハマダイ他）。中位と判断されたものが4種（メダイ、キハダ他）。低位と判断されたものが5種（ムツ類、ハマトビウオ他）。不明と判断されたものが1種（アカイセエビ）でした。資源の動向については、増加と判断されたものが2種（フクトコブシ、ソデイカ）。横ばいと判断されたものが6種（キンメダイ、ハマダイ、メダイ他）。減少と判断されたものが6種（ハマトビウオ、タカベ他）。不明と判断されたものが1種（アカイセエビ）でした（図1）。

成果の活用と反映

漁業者による自主的資源管理においては、漁業者同士が資源管理に関する協定を締結し、対象となる水産資源について資源管理の目標となる資源水準を掲げた上で、資源管理に取り組むことになっています。今後もこれらの水産資源の資源評価を継続するとともに、評価の精度向上を図り、資源管理の目標設定や取組の評価・検証に役立てていきます。

（山口 邦久）

水準：高位◎
動向：横ばい→



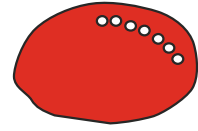
キンメダイ (伊豆諸島海域)

水準：低位△
動向：減少↘



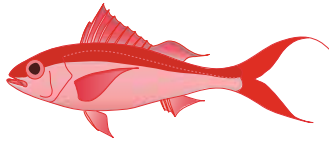
タカベ (伊豆諸島海域)

水準：中位○
動向：増加↗



フクトコブシ (伊豆諸島海域)

水準：高位◎
動向：横ばい→



ハマダイ (小笠原海域)

水準：低位△
動向：減少↘



クサヤモロ (伊豆諸島海域)

水準：中位○
動向：減少↘



イセエビ (伊豆諸島海域)

水準：中位○
動向：横ばい→



メダイ (伊豆諸島海域)

水準：高位◎
動向：横ばい→



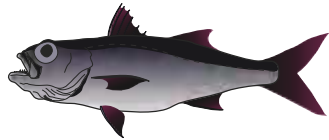
メカジキ (小笠原海域)

水準：不明？
動向：不明？



アカイセエビ (小笠原海域)

水準：低位△
動向：横ばい→



ムツ類 (伊豆諸島海域)

水準：高位◎
動向：横ばい→



カンパチ類 (伊豆諸島海域)

水準：低位△
動向：減少↘



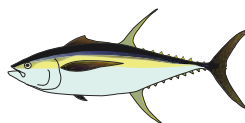
テングサ類 (伊豆諸島海域)

水準：低位△
動向：減少↘



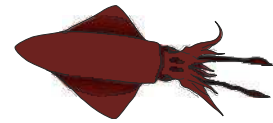
ハマトビウオ (伊豆諸島海域)

水準：中位○
動向：減少↘



キハダ (伊豆諸島海域)

水準：高位◎
動向：増加↗



ソデイカ (小笠原海域)

図1 15種の資源評価結果